

科目名 Course Name	ゼミナール I (公務員) Seminar I			ナンバリング No.	A1-017		
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	宮下義樹						
連絡方法	C-ラーニングまたは教室、非常勤講師室						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1 DP2 DP3						
授業の概要と到達目標	<p>【授業の概要】 公務員試験に向けた内容について扱う。公務員試験に向けて知識を蓄えるだけでなく、職に就いたときに資する応用力などを得られる場とする。あわせて半年を通して、自身の得意と苦手の把握及び夏期休暇における学習計画の構築をはかる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公務員試験に必要なポイントをおさえることができるようにする。 2. 論理的に思考することができるようにする。 3. 社会におけるさまざまな問題について多角的な視点から論じることができるようにする。 						
授業の方法	公務員試験に必要な知識を講義したうえで、学生が問題に取り組みそれに対する解説を行う。また、学生には順番に提示したテーマについての報告をしてもらい、それに対する議論を行う。						
学習成果	L01	学生は、テーマについての報告・議論を通して、主体的に問題発見と解決方法の提示ができる。					
	L02						
	L03	学生は、学んだ知識をもとに社会的事象を読み解くことができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	講義のなかで対応する。						
教科書/参考図書	<p>【教科書】 畑中敦子『畑中敦子の初級ザ・ベストプラス 判断推理 (第2版)』(エクスア出版、2019年) ISBN: 978-490880439-7 畑中敦子『畑中敦子の初級ザ・ベストプラス 数的推理/資料解釈 (第2版)』(エクスア出版、2019年) ISBN: 978-490880438-0</p> <p>【参考図書】必要に応じて講義中に提示する。</p>						
履修上の留意点やルール等	将来受ける公務員試験を見据えて取り組むこと。 各回の事前・事後学習の目安: 45 分						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	積極的な発言などから判断する。	10		10			
レポート/作品	独自性や内容のまとまりなどから判断する。	10		10			
発表	内容の適格性や要点をおさえられているかという点などから評価する。	40		20			
小テスト							
試験							
その他							
合計		60		40			

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション、現状把握
	事前・事後学習	次回までに目標や受験する公務員の職種で必要な科目などをまとめておくこと。
2	授業内容	文章理解1:現代文
	事前・事後学習	現代文の問題に取り組むこと。
3	授業内容	文章理解2:英語、古文
	事前・事後学習	英語、古文の問題に取り組むこと。
4	授業内容	判断推理1:形式論理
	事前・事後学習	形式論理の問題に取り組むこと。
5	授業内容	判断推理2:文章条件からの推理
	事前・事後学習	文章条件からの推理の問題に取り組むこと。
6	授業内容	判断推理3:数量条件からの推理
	事前・事後学習	数量条件からの推理の問題に取り組むこと。
7	授業内容	判断推理4:暗号と規則性
	事前・事後学習	暗号と規則性の問題に取り組むこと。
8	授業内容	判断推理5:平面図形、空間図形
	事前・事後学習	平面図形、空間図形の問題に取り組むこと。
9	授業内容	数的推理1:数と式の計算
	事前・事後学習	数と式の計算の問題に取り組むこと。
10	授業内容	数的推理2:方程式と不等式
	事前・事後学習	方程式と不等式の問題に取り組むこと。
11	授業内容	数的推理3:図形
	事前・事後学習	図形の問題に取り組むこと。
12	授業内容	数的推理4:場合の数と確率
	事前・事後学習	場合の数と確率の問題に取り組むこと。
13	授業内容	資料解釈1:数表
	事前・事後学習	数表の問題に取り組むこと。
14	授業内容	資料解釈2:グラフ
	事前・事後学習	グラフの問題に取り組むこと。
15	授業内容	まとめ、学習計画の確認
	事前・事後学習	夏期休暇中の学習計画を完成させること。

科目名 Course Name	ゼミナール I (編入対策) Seminar I			ナンバリング No.	A1-021		
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	松崎勇人						
連絡方法	C-ラーニングで対応。または、本館 2 階研究室、火曜を除く昼休みや空き時間						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2、DP3						
授業の概要と到達目標	日本大学や他の大学に編入するために必要となる知識・技能・思考力を高めるために、どのような学習スキルが必要かを考え、学習スキルを身に付ける。 ①能動的学習(自己調整学習)のために必要な PDCA 過程を実施できるようにする。 ②自己の学習に関する強さと弱さを評価して、学習スキル(学習方法)を高めることができるようにする。						
授業の方法	個人で学習計画を立てて実行し反省するという過程と、それについて小集団で話し合いを持ち、助言し合うという演習形式で行う。その中で具体的学習スキルを伝授していく。						
学習成果	L01	学習計画を立て、実行し、反省し、修正して、専門と教養科目の成績を上げることができる。					
	L02	自己の得意な学習スキルを教え、自己の弱い学習スキルを身に付けられる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	課題は講義中に返却し、コメントを加える。						
教科書/参考図書	特になし。必要に応じて自作プリントを配布する。						
履修上の留意点やルール等	極力休まないこと。学習計画を立て実行し、進んでモニタリングすること。積極的に話し合いに参加し教えあうこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	最高水準としては、課題を行った上で与えられたテーマについて、仲間の意見を聞いて取り入れ、自分の意見を述べ相手に教えることができる。		40		
レポート/作品	20 点満点の課題を三つ行うこと。学習計画を立て、実施の記録を取り、反省して変えていくことが出来ているかを評価する。	60			
発表					
小テスト					
試験					
その他					
合 計		60	40		

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション、編入希望調査、試験科目を調べる。
	事前・事後学習	編入希望大学の学部・学科と試験科目を理解し、短大生活の計画を立てる。
2	授業内容	能動的学習に必要なこと(学習前、学習中、学習後)
	事前・事後学習	どのように学習に取り組めば、最も効果が上がるかを理解する。
3	授業内容	学習前にすべきこと(計画においてチェックすべきこと)。課題 1(編入試験科目の学習計画を作る)
	事前・事後学習	課題 1 を行う。
4	授業内容	学習中にすべきこと(モニタリングにおいてチェックすべきこと)。モニタリングシートの使い方。課題 1 の途中報告と話し合い。課題 2(学習モニタリングシートを付ける)
	事前・事後学習	課題 1 をより良いものに変える。モニタリングシートに、学習の記録を付ける。
5	授業内容	学習後にすべきこと(自己評価においてチェックすべきこと)。自己評価シートの使い方。課題 1 の提出締切。モニタリングの仕方についての話し合い。課題 3(編入試験科目得点の自己評価シートを付ける)
	事前・事後学習	モニタリングシートに、学習の記録を付ける。モニタリング活動を改善する。
6	授業内容	時間を管理するスキル。話し合い。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
7	授業内容	文章理解と文章要約のスキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
8	授業内容	ノートを取るスキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
9	授業内容	テストの予想と準備スキル。演習問題を解く。モニタリング活動の途中経過発表。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
10	授業内容	作文とレポートを書くスキル。演習問題を解く。
	事前・事後学習	上記のスキルがどの程度あるか自己評価し、それを改善するにはどうすべきか考える。
11	授業内容	能動的学習スキルについての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
12	授業内容	文書理解等のスキルについての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
13	授業内容	レポートを書くスキルについての話し合い。個別支援。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
14	授業内容	スキルの応用の成果発表。課題 2 の提出締切。
	事前・事後学習	話し合いから取り入れられることを課題 2 に反映させる。
15	授業内容	夏休みの学習計画を立てる。課題 3 の提出締切。
	事前・事後学習	夏休みの学習計画を御立てて実行しモニタリングし、ゼミナールⅡの課題 1 として提出する。